

関東学生新聞連盟 合同紙面企画

7大学 編入学特集

編入学生インタビュー

理科大×青山学院×慶應×上智×筑波×一橋×法政

この企画は、関東学生新聞連盟に所属する7大学新聞会が合同で紙面をつくるというものだ。「編入学」というテーマは、お互いの大学を比較する他、さまざまな経緯で大学に入ってくる学生を取り上げること、私たち学生の視野を広げることを目的としている。大学に入学後の進路は、卒業して就職または大学院進学だけでなく、編入学という道もある。大学を卒業してから編入する人や、専門学校からの編入、一度は社会に出てからの編入など、さまざまな学生をみて、進路の可能性がいかに多様であるかを考えるきっかけになれば幸いだ。

東京理科大学

坂田智章さん

東京理科大学
工学部第一工務経営工学科
埼玉大学
工学部機械工学科

編入するまでの経緯は？

坂田さんは、もともと機械工学を学びたいと考えていたが、大学入学時には本学の経営工学科に進んだ。しかし、入学後もやはり自分の本当に学びたいものが学べるところへと、編入学を選んだ。本学の3年次編入では、カリキュラムの都合で経営工学科からの編入はできず断念した。そこで、1年の終わりに3年次編入に切り替え準備を始めた。3年次からは、他大学も編入生を募集しているため、本学だけでなく有名私立大学もしくは国公立大学の編入も視野にいった。坂田さんは本学の第二部に在籍していたため、授業が始まる夕方までは編入学試験への勉強時間にあてた。編入学試験は受ける大学によって大きく異なる。科目数も1科目のみの大学もあつ

たが、3科目必要な大学は大変だった。他にも、面接や口頭試問などはとても緊張したが、しっかりと対策を練っていた。編入後の大学生活で大変なことは？

埼玉大には、編入生の集まるサークルがあり、そのおかげで友達はずいぶんできた。そのサークルでは、所属学生の企画で遊びに行ったり、学園祭に出店したり、お互いに勉強を教え合ったりしているため、友達面での苦労はあまりない。

勉強面では、2年間経営工学科で学んだものと違うものを学んでいるので、それなりに厳しさもある。また新しいことを学ぶ難しさに加えて、編入生ならではの苦労もある。例えば、カリキュラムの都合上、3年前期で材料力学IIを受け、後期で材料力学Iを受けなくてはならず、これには大変苦労している。機械工学科への編入生は、高等専門学校からの学生が主であるため、経営工学科出身の坂田さんは他の

青山学院大学

「もつと学びたい」短大から大学へ

青山学院大学への編入を決意した経緯は？

青山学院女子短期大学での勉強が、とても充実していた。指定校推薦の枠もあつたし、同じ敷地内にあるので短期大学のお世話になつたりしていたが、もつと勉強を続けていきたいという気持ちが強くなり、編入学を決めた。青山学院大学編入学試験で使った教科

編入学で学びたいものが学べる環境へ

編入生よりも苦労が多い。それでも、編入して本当に学びたかったものを学べる可能性ができたというの大きなことだと思ふ。

二部から一部へ編入してみようと思ふことはあるか？

学生にとって夜間部の方が効率は良いのではないかと。というの、大学では朝寝坊して遅くなる学もいるが、夜間部ならそれも防げる。また夜間は、毎日コンスタントに3コマの授業があるため、毎日大学に通うという習慣ができるのも学問を修める学生にとっては効果があるように思ふ。

理科大と埼玉大の違いは？

本学の神楽坂キャンパスと埼玉大では、キャンパスの形態が大きく異なる。埼玉大はキャンパスまで駅からバスで行かなくてはいけず、毎日通うことを考えればやはり駅に近いことは重要といえる。しかし、広い敷地に緑の多い埼玉大のキャンパスでは、授業の移動で歩くこともリフレッシュになる。学生の雰囲気

法政大学

芸術学部を卒業後、社会学部へ、「学びつづけるために」

編入学を決意した経緯は？

日大に在籍していた3年生の頃、大学の緩慢な学習方針に対して不安に思っていた。そこで4年生のときに大学院を受験するも、失敗。しかし、進学を諦めることができず、様々な分野の本を読んでいて、興味を抱いた社

編入してよかったか？

よかったです。短期大学にいた時よりも規模が大きくなり、様々な人と出会うことができたし、勉強が続けられることが嬉しい。

時間割を組む際に分からないことが多かったのと、在学生よりも取らなくてはいけぬ単位が多かったこと。編入生同士の交流はある。特に、同じ短期大学から編入学した人とはよく交流をする。



▲編入学について語る坂田さん

編入学を決意した経緯は？

法学を学べる大学への編入を決意した。編入学試験で使った教科と勉強方法は？

英語と小論文、面接の3科目。予備校で対策をした。英語は文法と単語を固めながら、予備校で得た編入試験の問題傾向に則し、長文対策に重点を置いていた。小論文は大学受験と同じく、大まかな枠組みや論の立て方などを習い、自分で組み立てた論理を理路整然と表現できるよう心がけた。面接試験の対策としては、説得力のある志望理由を考えた。

法政大学を受験したきっかけは？

編入学を決意した後、興味のある社会学を学ぶことができる場

編入してよかったか？

よかったですと思う。希望通り金原教授のゼミに所属することができた。



▲編入学で充実した生活を送る竹下さん

を調べていると、法政大学が目にとまった。同学社会学部で開講されている創作活動に取組む金原教授のゼミに強い関心を持った。社会学を学びつつ、日藝時代から続けてきた創作活動にも励みたくいという思いから志望した。

編入学して大変だったことや、編入生同士の交流などはあつたか？

大変だと思つたところは、大変だと思つたところはあまりないが、必修科目などを修得していないため、毎日大学に通つた。時には1限から5限まで講義を受けることもあつた。交流は編入生対象のガイダンスで少し話したのみ。学科にすぐ溶け込んだため特に編入生同士の交流はなかつた。

編入学をしてよかったか？

よかったですと思う。希望通り金原教授のゼミに所属することができた。

大学院入試に失敗後、編入学の道を選び、充実した学生生活を送る竹下さん。編入学制度について理解を深め、活用することは、充実した学生生活を送る一つの手段となりうるのだ。

(上智大・澤翔太)

●関東学生新聞連盟紹介

関東学生新聞連盟は2008年に関東地方の学生新聞団体の相互扶助を目的として発足した。本学は今年度4月から連盟に加盟した。2015年12月時点で、青山学院大学、慶応義塾大学、上智大学、筑波大学、東京理科大学、一橋大学、法政大学の7大学が加盟し、活動している。活動は毎月のミーティングが中心で、お互いに紙面の検討、新聞作成の技術交換など、各新聞の質向上に取り組んでいる。その他にも、今回のような合同紙面や、コンテストの開催も検討しており、学生新聞がますます盛り上がるようこれからもさまざまな活動を行う予定である。